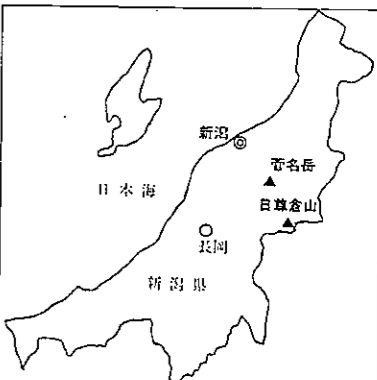


菅名岳・日尊倉山のブナ自然林を保護地区に

新潟県

新潟県のブナ林は、「日本海型」として学術的にも注目すべきものがあるが、伐採や各種の開発により、急速に姿を消しつつある。だが、いままた、残存する県下随一ともいえる菅名岳、日尊倉山の貴重な自然林が、前橋営林局の手で伐採されようとしている。

石沢 進



その原生的景観が遠からず衰滅する恐れがあり、現在のブナ林の保護は緊急かつ重大な課題となっている。

このような現況の中、県内では幸いに、すぐれたブナの自然林が、五泉市菅名岳(標高九〇九メートル)ならびに東蒲原郡の上川村日尊倉山(海拔一二六二メートル)にみごと形に残されている。

菅名岳のブナ林は、林相が美しく、そして雪国植物の代表であり、新潟県の本として親しまれるユキツバキが林床に密生していて、自然の状態がよく保存され、県下で最もすぐれたブナ・ユキツバキ群落である。しかも、山麓の沢筋には全国的にも極めて稀となったカツラの自然林があり、根もとの直径が二・三メートルに及ぶ巨木が多く、その樹幹には、稀産のイワオモダカや深山性のホテイシダなどの着生シダが、地上二〇メートルほどの高さまで豊富に生育している。林床にはイワヤシ

急速に分断・縮小・消滅

本県では、かつては、標高一〇〇メートルの低地から一七〇〇メートルの高所に及んで、山地の大部分を包含する広大な範囲にすぐれたブナ林が存在していたのであるが、近年の伐採、各種の開発などの推進により急速に分断・縮小あるいは消滅して、現在ではまったく樹林は稀なものとなってしまい、



▲日尊倉山とその周辺のブナ原生林(写真右下側は択伐地S.58.10)

ブナ林は、本州中部以北の冷温帯域に気候の極相林として分布する夏緑広葉樹林であり、本州中部以南を本拠とする暖温帯照葉樹林とともに、我が国の森林景観を形づくる代表的な植生である。そして、地理、民族の上からも、照葉樹林とともに我が国の文化を広くくんだ森林として、極めて重要な意義をもつものである。

新潟県においては、山地の大部分の地域では原植生がブナ林であり、そのブナ林は、本県の気候、地形、地質等の環境条件に適應して平衡が保たれ、今後も長期にわたって維持し得る安定した生態系を形づくっており、まさに県土のすぐれた自然景観の基盤をなす最も価値の高い要素となっている。しかも、このすぐれた自然は水源の涵養源であるとともに、四季折々の美しい

夕をはじめ、分布上顕著な植物も多く、県内では他に類をみない特異な植生として温存されている。このような原生的なブナやカツラの自然林が、県都新潟市からわずか三〇キロメートルほどの至近の低標高地に、いまだに残存していることは驚くべきことであり、學術の面のみならず、水源涵養や野生動物の保護をはじめ、身近で豊かなすぐれた自然教育の場として、その保全の意義には計り知れないものがある。

県下随一の自然状態を保持

一方、上川村日尊倉山においては、胸高直径一メートル余、高さ三〇メートルに及ぶブナの巨木をまじえたみことな自然林が数百ヘクタールにわたってひろがり、一大原生的ブナ林を形成している。この一帯はかつて、一〇



▲日尊倉山のブナ原生林の樹海(S.61.8)

注目すべき日本海型ブナ林

ブナ林は、本州中部以北の冷温帯域に気候の極相林として分布する夏緑広葉樹林であり、本州中部以南を本拠とする暖温帯照葉樹林とともに、我が国の森林景観を形づくる代表的な植生である。そして、地理、民族の上からも、照葉樹林とともに我が国の文化を広くくんだ森林として、極めて重要な意義をもつものである。

新潟県においては、山地の大部分の地域では原植生がブナ林であり、そのブナ林は、本県の気候、地形、地質等の環境条件に適應して平衡が保たれ、今後も長期にわたって維持し得る安定した生態系を形づくっており、まさに県土のすぐれた自然景観の基盤をなす最も価値の高い要素となっている。しかも、このすぐれた自然は水源の涵養源であるとともに、四季折々の美しい

〇〇ヘクタール以上にわたる広大なブナ林であったが、林道の開設に伴い伐採が進み、縮小の一途をたどっている。しかし、残存部分の面積は減ってはいるものの、なお、広い面積にわたる人為的影響の極めて少ないブナ林は、原始的の高い高次の自然状態を保持しているものとして、県下で残されている随一のものである。このブナ林は、ブナ・オオバクロモジ群集に属する典型的な日本海型ブナ林であり、林床にヤマトユキザサ、シラネワラビなどの亜高山性植物がよく生育し、またうっそうとした林冠を形成しているため空中湿度が高く、稀産のミヤマノキシノブなどの着生植物がブナの樹幹に高々と上って生育するのは、生態分布の上でも興味深く注目すべきことである。このすぐれた樹林は、森林動物の安息所でもあり、稀産の鳥類のクマタカ、



▲新潟平野から望む早春の菅名岳(S.60.5)

伐採計画の中止を

このように、菅名岳および日尊倉山は、原生的なブナ林の自然環境の保全が広い視野に立って、特に強く望まれる地域に当たる。しかし、このかけがえのない両地域のブナ林について、林野庁前橋営林局は、近く策定される新潟北部地域第五次地域施設計画において、伐採の対象として検討中とのことである。その内容は、「両地域とも区域の一部の択伐(間伐)である」と報道されているが、択伐といえども自然環境の改変は著しく、群落構造は大きく変貌して、現在の植生の形態にはか



▲菅名岳のカツラ巨木(根元直径272cm、樹高28m)

えられない。もし、伐採が実現すれば、両地域のすぐれた自然の保全にとって重大な支障を生じること明白である。

前述のような、両地域のブナ林の持つ学術的ならびに資産的な価値については、従前より行われてきた新潟県や地元研究者による学術調査だけでなく、自然保護団体、地元市議会、村議会、および住民など、多数の人々による再三の現地調査により共通して確認されているところである。これに基づき、今回の伐採計画のとり下げを求めて、最近各方面から林野庁に対する陳情あるいは要望が行われている(昭和六一年一月二〇日には、自然の調査研究、啓蒙普及を行っている県内の五団体が、林野庁に対して要望書を提出)。

ここにおいて、林野庁は、今回の伐採計画を即中止し、さらに、今後長い将来にわたって人々がその恩恵を確実に受け継ぐことのできるよう格別の配慮をしてほしく、法令による保護地域の指定(新潟県自然環境保全地域)などについても、十分な理解と協力をいただきたいものである。

林野庁の地域施設計画は、六二年四月から実施期間に入るものであるが、このかけがえのないブナ林が一たび失われれば復元は極めて困難なので、ここに伐採計画の中止を訴えるとともに、各方面のご支援とご協力をお願いしたい。